

令和2年度 農林水産大臣賞の概要

たじみさんごう 多治見三郷活性協議会（岐阜県多治見市）

～ 田舎から世界へ商品を！世界から田舎へお客さんを！ ～

1 むらづくりの動機、背景、経緯

岐阜県多治見市の南西部、南池田地区にあり、農業を主産業としている3集落（甘原町、三の倉町、諏訪町）は「三郷」の愛称で呼ばれており、山に囲まれた盆地に存在する集落で、都市近郊にありながら昔ながらの農村風景を有しているが、近年は高齢化による担い手不足や人口減少による過疎化が進んでいる。また、これまでこの地区では、各集落が独自に限られた農地を活用する取組を行っていた。

こうした状況の中、甘原集落を中心に集落の枠を超えて、地域資源を活用し、「所得の向上」や「地元雇用の創出」、「都市住民との交流」による地域活性化を図るため、平成27年「多治見三郷活性協議会」が設立された。

協議会では、外部有識者を招へいして、今後の三郷地域で行う農業、取組などの事業を明確化し、具体的な取組の目標設定を行った「多治見三郷地域の将来ビジョン」を作成。

その将来ビジョンに掲げた取組を実現するため、協議会内に3集落と県、市、地元企業などを構成員とする4つの部会を設置し、毎月開催される定例会議で合意形成を行い、目標実現に向けて取り組んでいる。

2 むらづくりの内容

(1) 新規農作物導入の取組

新規農作物を導入するため、東京のトップシェフを訪問、ヒアリングを実施し、リクエストの多かったマイクロ野菜（有機野菜）を導入、レストランの需要に即した野菜の栽培を実施した。



マイクロ野菜

また、もみじ加工品においても高い評価を得て、たくさんのオファーがあったことから生産

を増強しており、耕作放棄地を開墾したもみじ畑は、開始当初の 1.3ha から 5.0ha に増加、現在は海外へも輸出されている。

(2) 有機農作物栽培の取組

県の技術指導や視察により有機野菜の栽培知識や需要を把握するとともに、野菜を栽培するために約 50 a の耕作放棄地を解消、栽培時期や利用のしやすさなどを考慮して、アスパラガスやキャベツなど 10 種類を選定し、試験栽培をすることにより、野菜の生育状況や土壌環境を把握し、今後の有機野菜生産に向けた準備を行っている。

(3) 地域食材PR活動の取組

地域食材のPR活動として、首都圏、関西圏などでの展示会への出展を継続的に行っており、新たな顧客の確保が図られている。



展示会への出展

(4) 女性の社会参画の取組

地元の観光農園で働く女性を中心として組織されている女性部会では、開園期以外の無収入を解消すべく、地元農産物を発酵させた自家製天然酵母によるパン作りのノウハウを取得し、漬物工場跡の施設を活用したパン工房を運営している。

平成 30 年には一般社団法人化し、SNS などを活用しPRするとともに、観光とセットにした販売も視野に入れている。

(5) 都市住民との交流の取組

地域資源を活かした観光振興を図るため、この地域を都会から直近の田舎「トカイナカ」と位置付け、観光マップの作成や観光ツアーを開催し、都市との交流に向けた取組を行っている。

3 今後の展開方向

多治見三郷活性協議会は、三郷の名のとおり集落の枠を超えた組織形態であり、それぞれの地域がその特色を生かした役割分担のもとに活動を展開している。

これまでの取組は「多治見三郷地域の将来ビジョン」に即したものであり、今後もこのビジョンをもとに取組の継続と発展が期待される。